

大分大学
2023年度

概要

教育学部

大学院教育学研究科



Oita University

Faculty of Education

Graduate School of Education



OITA UNIVERSITY

本学部は明治6年に旧府内藩文武館を改称した府内学校を起源とする大分県師範学校(明治9年)の創立に始まります。以来、150年近い歴史の中で、旧制諸学校である大分師範学校と大分青年師範学校を総括し、昭和24年新制大分大学学芸学部として新たな歩みを開始しました。その後、昭和41年教育学部への名称変更、平成11年教育福祉科学部への改組を経て、平成28年4月より小学校教育コースと特別支援教育コースから成る教員養成に特化した教育学部となりました。さらに令和2年度、小学校教育コースは初等教育(小学校及び幼稚園)と中等教育(中学校と高等学校)を網羅する初等中等教育コースへと名称を変更しました。教育学部は地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域教育課題に的確に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、特別支援学校教員を中心に、隣接する幼稚園教員、中学校教員、高等学校教員の養成を行います。

また平成4年に設置された大学院教育学研究科には、平成28年度、学校教育が抱える複雑・多様化する今日の諸課題に対応しうる高度専門職業人としての教員の養成に特化した教職開発専攻(専門職学位課程)、いわゆる教職大学院を新設しました。さらに令和2年4月、教職大学院は、幅広く深い学識の涵養を目的とする学校教育専攻(修士課程)と統合することで、学校経営、授業開発、生徒指導、教科内容、学級経営、特別支援教育という幅広い領域の教育研究機能を有するとともに、理論と実践の往還・融合の積み重ねによる高度な実践的指導力を備えた教員の養成を行う新たな教職大学院へと生まれ変わりました。

教育学部、教育学研究科は地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、地域教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、社会が求める高い付加価値をもった教員の養成を図っていきます。

令和5年6月

大分大学 教育学部長
大学院教育学研究科長 古賀 精 治



目 次

はじめに	1	附属学校園	11
教育課程と進路	2	教員紹介	13
教育学部	3	大分大学教育学部 入学者受け入れの方針	14
大学院教育学研究科	5	大分大学教育学部 卒業認定・学位授与の方針と 教育課程編成・実施の方針	15
理想の教師像を具体化する サポート体制	7	建物配置図	16
附属教育実践総合センター	10		

教育課程と進路



教育学部

()内は入学定員

学校教育教員養成課程
(150)

初等中等教育コース
(140)

特別支援教育コース
(10)

教養教育科目

〈全学共通科目〉地域の教育課題、情報処理入門など 〈外国語科目〉小学校英語演習など

課程共通科目

人権教育論、生涯学習概論、教育支援実践研究、板書演習、学校教育におけるICT活用、
小学校におけるプログラミング教育、教育コミュニケーション力の開発など

— コースの主な授業科目 —

教師学、教育本質論、発達と教育の心理学
現代社会と教育、教育制度・経営論
特別支援教育論A、各教科指導法(小)
道徳の指導法、総合的な学習の時間の指導法
特別活動の指導法、教育課程・方法論
生徒指導論、教育相談、教育実習
教職実践演習、初等教育教科に関する科目
教職入門ゼミ、教職展開ゼミ
小学校学級指導演習
幼稚園教諭免許に関する科目
中学校教諭免許に関する科目など

特別支援教育概論
障害児教育総論
知的障害児の心理・生理・病理
知的障害児の教育と指導法
肢体不自由児の心理・生理・病理
肢体不自由児の教育と指導法
病弱児の心理・生理・病理
病弱児の指導法
重複障害教育総論
学習障害(LD)児等の心理と指導法
障害児教育史
障害児教育実習など

卒業後の進路

教員(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園)
大学院進学、その他

地域の教育に貢献する質の高い教員を養成します

Faculty of Education

教育学部

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、および隣接校種である中学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員の養成を行います。

学校教育教員養成課程

初等中等教育コース

入学当初から、初等教育教科に関する科目の全教科及び基本教職に関する科目を学び、小学校教員に求められる基礎的資質、知識を身に付けます。2年次からはさらに、隣接校種である中学校あるいは幼稚園の教員免許を取得するための科目を学びます。

その上で、教育展開科目や附属小学校又は公立小学校での教育実習(主免1)、附属中学校もしくは附属幼稚園での教育実習(主免2)を通して、学校を取り巻く地域の教育課題への意識や、教師としての自覚を形成するとともに、子ども理解と適切な指導力を身に付けます。

4年間の学習・体験を通して、新しい時代を担う子どもたちの学び力を育む実践的指導力を持ち、教育現場で生起する諸課題に適切に対応できる小学校教員、および中学校や幼稚園の教員を養成します。

特別支援教育コース

入学当初から、知的障害や肢体不自由などのある子どもたちと直接触れ合う機会を多く設けています。その実践的な体験を重視しつつ、障害児の心理・生理・病理に関する専門的な知識と教育課程・指導法についてしっかりと学びます。

特別支援教育に関する教育実習は、附属特別支援学校における事前指導・教育実習(本免)に加え、公立特別支援学校での体験的な実習(応用実習)もあり、期間・質とも充実しています。また、特別支援学校教諭免許のほか、基礎免許として小学校教諭免許を取得するため、小学校の教育実習にも行きます。

特別支援教育コースは、学生主体の行事も充実しており、子どもたちの特別な教育的ニーズに応えられる特別支援学校の教員及び小学校・中学校の特別支援教育の中心的役割を担える、特別支援学級や通級による指導を担当する教員の養成を行っています。



教育実習(小学校)



情報処理入門



障害児教育演習

取得できる教員免許状

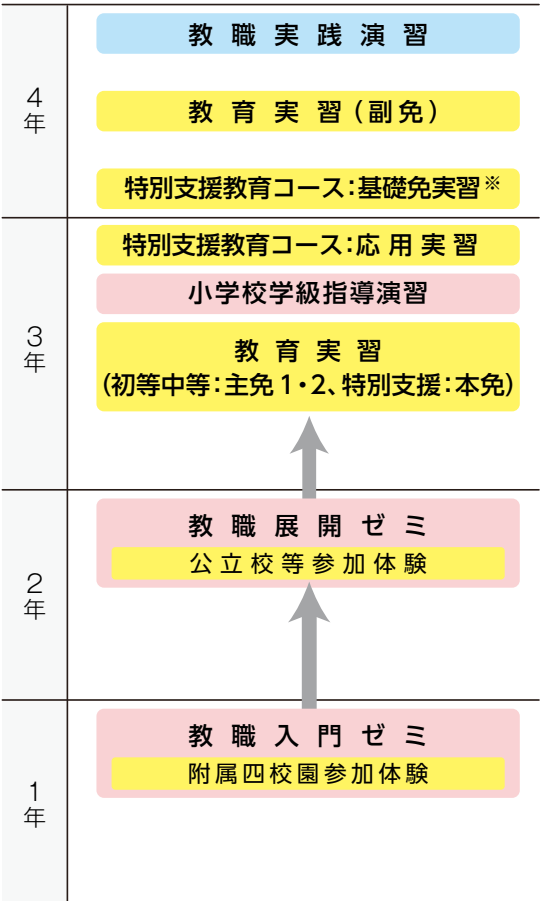
課程	コース	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得できる教員免許状		卒業要件単位に含まれる科目のほか、当該教員免許に必要な科目の修得により取得できる教員免許状	
学校教育教員養成課程	初等中等教育コース	必ず取得	●小学校教諭1種	いずれか1つを選択 (学校種や教科によって人数制限があります。)	●幼稚園教諭1種/2種 ●中学校教諭1種/2種 (左欄で中学校教諭を選択した場合は、選択した教科以外の教科を選択できる。) ●特別支援学校教諭1種/2種
	特別支援教育コース	両方を必ず取得	●特別支援学校教諭1種 ●小学校教諭1種/2種	いずれか1つを選択 (学校種や教科によって人数制限があります。)	●幼稚園教諭1種/2種 ●中学校教諭1種/2種

【1種免許について】 1種/2種と記載している免許は、2種免許に必要な科目に加え、さらに追加で所定の単位を修得することで1種免許を取得することができます。

【中学校教諭免許について】 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語の免許が取得できます。

【高等学校教諭免許について】 中学校教諭1種を取得すれば、さらに所定の科目の単位を修得して同じ教科の高等学校教諭1種が取得できます。取得可能な高等学校教諭免許の教科は、国語、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語です。

教育実習計画



※特別支援教育コースでは、小学校に基礎免許の実習に行きます。

現在、実施しているカリキュラムでは、教育実習と実習の成果を省察する授業が一体的に構成されている点が大きな特徴です。こうしたカリキュラムを通して学び、最終的に「教職実践演習」で教員としての最小限必要な資質・能力が獲得されているかを確認します。

出身都道府県別学生数(出身校)

年次	教育学部				合計
	1年	2年	3年	4年	
都道府県					
大分県	107	88	76	77	348
福岡県	9	10	11	12	42
佐賀県	3	2	4	4	13
長崎県	7	6	6	11	30
熊本県	6	7	7	7	27
宮崎県	2	3	6	5	16
鹿児島県	0	2	0	0	2
沖縄県	0	1	2	0	3
愛媛県	0	2	0	4	6
香川県	2	0	2	1	5
徳島県	0	0	0	1	1
山口県	6	3	4	7	20
広島県	5	4	4	4	17
岡山県	0	2	1	1	4
島根県	0	1	1	0	2
鳥取県	1	0	3	1	5
兵庫県	0	1	1	4	6
大阪府	3	0	0	2	5
その他の都道府県	4	3	7	4	18
合計	155	135	135	145	570

理論と実践の往還を通して高度な専門性を備えた教員を養成します

Graduate School of Education

大学院教育学研究科

教職開発専攻〔教職大学院〕(定員20名)

理論を基盤とする高度な実践力を身につけたい現職教員と学部卒生が対象

教育学研究科教職開発専攻は、学部教育で培われた基本的知識と教育的指導力、また、学校教育現場における経験を通して蓄積した教育者としての資質や能力を、教職大学院で学修する教育理論を基盤とする高度な教育実践力にまで高めた学校教員を輩出することで、地域の教育がかかえる課題の解決と将来の学校教育の発展に寄与することを基本理念としています。この理念に基づき、本専攻では、「新たな学校づくりにおいて指導的役割を果たし得るスクールリーダー」や「新しい学びや多様な教育課題に対応し得る実践的指導力をもった教員」を養成することを目的とします。

理論と実践を架橋した教育

4つの分野のプロフェッショナルを育成するために、実務家教員と研究者教員のティーム・ティーチングによって、高度な専門的知識と実践技術を教授します。また教育学部や附属教育実践総合センターの教員も、兼任教員として教職大学院の授業科目を担当します。

◆4つの分野で
プロフェッショナルを育成

学校経営

授業開発・教科教育

学級経営・生徒指導

特別支援教育

《多様な視点と立場を持つ
教員による協働的な支援・指導》

◆高度な教育実践力を養う
「理論と実践の往還」

教育理論や教育技術
に関する研究

学校実習における
実践経験

実践経験に対して、理論的、
学術的な視点を加えて省察

学修したことを生かし、
教育課題に対する解決策
や改善策を構想・実践

最新の学問的知見に基づく
研究者教員の支援・指導

豊富な実践経験に基づく
実務家教員の支援・指導

教科の内容や教育方法、生徒指導や学級経営、特別支援教育など多岐にわたる
分野におけるプロフェッショナルが揃う **学部教員(兼任教員)**



共通科目では、現職教員の院生と協働的に学ぶことで実践力を高めます。



実践的知識の習得、その知識を活用した事例分析、そして具体的なデータ等を用いた演習を中心とした授業を行っています。

教職大学院のカリキュラムイメージ(修了要件45単位)

共通科目(16単位)

●基礎理論科目(10単位)

「カリキュラムデザイン基礎」
「授業開発・学習指導基礎」
「生徒指導・教育相談・特別支援基礎」
「学校の組織づくり基礎」
「教員の専門性開発基礎」

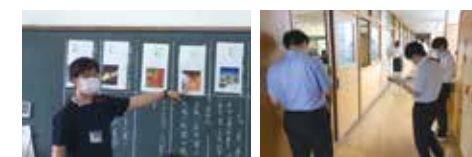


●実践演習科目(選択必修6単位)



実習科目(10単位)

●学校や関係機関などで2年間で400時間の
実地経験を積みます。



省察科目(9単位)

●実習の経験を振り返り、2年間の研究成果
として報告書を作成し発表します。



高度専門科目(多様な科目群から選択・5科目10単位以上)

●学校マネジメント
に関する領域
(5科目)

●授業研究・授業開発
に関する領域
(4科目)

●児童生徒理解・学級
経営に関する領域
(4科目)

●特別支援教育に
関する領域
(8科目)

●学校研究に関する
領域
(1科目)

取得できる免許状の種類

幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状、
高等学校教諭専修免許状、特別支援学校教諭専修免許状(領域：知的障
害者、肢体不自由者、病弱者)

1種免許状を取得している者が当該専修免許状
に必要な単位を修得して本研究科を修了すれば、
専修免許状が取得できます。



令和4年度修了生の就職状況(大学院)

令和5年5月1日現在

専攻	性別	修了者数	公立学校教員					私学教員	臨時教員	官公庁等	企業等	医療・福祉	その他	進学等
			小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園							
学校教育	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職開発	男	11	5	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
計	男	11	5	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0

内訳：〔教職開発〕〔男性〕小学校3名・中学校3名は現職 〔女性〕高等学校1名、特別支援学校1名は現職



実習風景
2年間で計400時間の実習で実践力を高めることができます。

理想の教師像を具体化するサポート体制

Support System

教員就職率及び正規教員就職率で 3 年連続全国 1 位！

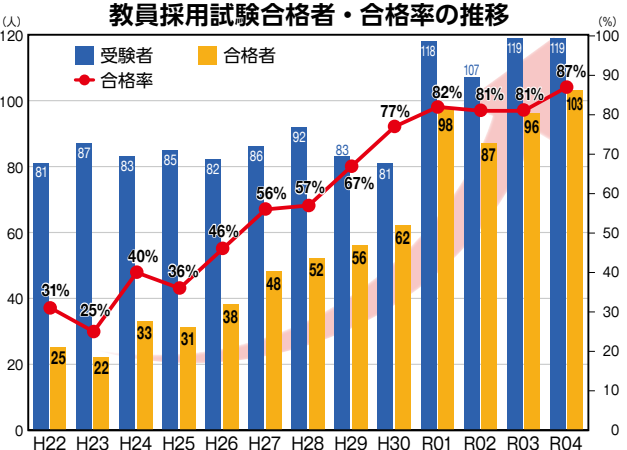
文部科学省が発表した「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の大学別就職状況」より、令和 4 年 3 月卒業生の教員就職率(正規 + 臨時)及び正規教員就職率が 3 年連続全国 1 位となりました。

これは、文部科学省が国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)44 大学・学部の大学別就職状況を調査し毎年発表するもので、本学教育学部は、教員就職率(75.5%)及び正規教員就職率(65.5%)が令和 3 年 3 月卒業生に引き続き、全国の国立教員養成系学部・大学の中で 1 位となりました。

また平成 28 年 3 月から令和 4 年 3 月までの 7 年間の平均でも、教員就職率が 73.0%(全国平均 58.9%)、正規教員就職率が 58.8%(全国平均 41.0%)となり、ともに全国 1 位で、本学教育学部は、安定して全国トップの教員就職率を維持しています。

令和 4 年 3 月卒業生の大学別正規教員就職状況 〔教員養成課程〕上位 5 大学	
卒業生に対する 教員就職率(正規+臨時)	卒業生に対する 正規教員就職率*
1 大 分 (75.5%)	1 大 分 (65.5%)
2 福 岡 教 育 (72.4%)	2 長 崎 (59.1%)
3 広 島 (70.4%)	3 福 岡 教 育 (58.1%)
4 愛 知 教 育 (68.7%)	4 広 島 (57.9%)
5 長 崎 (67.7%)	5 愛媛・上越教育 (57.2%)
全国平均 (60.1%)	全国平均 (43.9%)

※令和 4 年公表文部科学省報道発表資料より算出



高い教員採用率を支える手厚い指導



本学部・研究科が目指すのは、より多くの学生が教員採用試験に合格することだけではなく、学校現場で意欲的に活躍するよい教員を育てることです。そのために、理論と実践の両面から、個々の学生の特性を把握しつつ、きめ細かい指導を行っています。

- メンタリング・コーチングシステム(次ページ参照)による、個々の学生に寄り添った手厚い指導を行います。
- 教員全員で、教員採用試験(教採)に向けた指導・助言を行います。
- 授業以外の、よい教員を育てるための取組みとして、就職・進路支援室と教師育成サポート推進室によって実施される教採対策講座があります。

就職・進路支援室

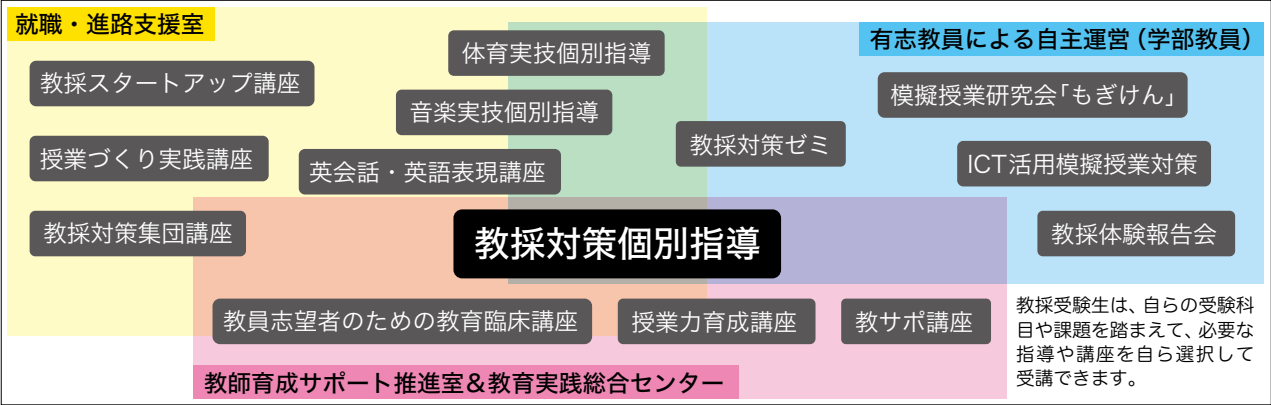
教育学部には、学生の卒業後の進路選択や就職活動をサポートするために、就職・進路委員会が設置されています。直接学生と関わる窓口としては、就職・進路支援室が開設されており、教員採用試験を中心とした就職試験や進路全般に関わる相談や情報提供、教員採用試験に向けた各種講座を実施しています。

1. 学内教員講座

教育学部の全教員による教員採用試験に向けた講座です。最近の教員採用試験で重要視されている模擬授業、個人・集団面接、集団討論等の人物試験対策を主に行います。

2. 学外講師講座

学校現場の教員経験を有する外部講師による講座です。教員採用試験の直前に 4 年生を対象とした集団指導講座と 3 年生の春休みに実施する授業づくり実践講座があります。授業づくり実践講座では、県内の公立小中学校で、実際に授業を行い、授業力・指導力を向上させます。



*メンタリング・コーチングシステムとは

複数の指導教員(メンター)が 1 年次から卒業まで、一人ひとりの学生に対応した修学指導や生活指導、教員採用試験に向けての指導(コーチング)を行います。

令和 4 年度卒業生の地域別教員採用数

地 域	小学校	小中連携教諭	中学校	高等学校	特別支援	幼稚園
大 分 県	35	4	10	4	5	2
福 岡 県	6	0	0	0	1	0
福 岡 市	0	0	1	0	0	0
北九州府	2	1	0	0	0	0
佐 賀 県	0	0	1	0	0	0
長 崎 県	2	0	0	0	0	0
熊 本 県	1	0	1	0	1	0
熊 本 市	2	0	2	0	0	0
宮 崎 県	2	0	0	0	0	0
鹿 児 島 県	2	0	0	0	0	0
愛 媛 県	3	0	1	0	0	0
香 川 県	1	0	0	0	0	0
山 口 県	2	0	0	0	0	1
島 根 県	1	0	0	0	0	0
鳥 取 県	1	0	0	0	0	0
岡 山 県	1	0	0	0	0	0
和 歌 山 県	1	0	0	0	0	0
三 重 県	1	0	0	0	0	0
東 京 都	2	0	0	0	0	0
北 海 道	1	0	0	0	0	0
バンコク	1	0	0	0	0	0
合 計	67	5	16	4	7	3

※私学高等学校 1 名、私学幼稚園教諭 1 名、企業幼稚園教諭 2 名 含む 令和 4 年 9 月卒業生該当なし

令和 4 年度卒業生の就職・進学状況

コース別	性 別	卒業 者数	公立学校教員						私学 教員	臨時 教員	官公 庁等	企 業 等	医 療 福 祉	進 学 等	そ の 他
			小 学 校	連 携 中 学 校	中 学 校	高 等 学 校	学 特 別 支 援 校	幼 稚 園							
小学校教育コース	男	64	29	2	9	2	0	0	1	5	3	2	1	8	2
	女	71	37	3	7	1	1	0	4	3	5	4	2	0	4
特別支援教育コース	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	8	0	0	0	0	5	0	0	1	0	1	1	0	0
計	男	65	29	2	9	2	1	0	1	5	3	2	1	8	2
	女	79	37	3	7	1	6	0	4	4	5	5	3	0	4
学 部 全 体	合 計	144	66	5	16	3	7	0	5	9	8	7	4	8	6

※私学教員にはバンコク日本人学校小学校教諭 1 名 含む 令和 4 年 9 月卒業生 1 名 含む

教師育成サポート推進室

教師育成サポート推進室における教採対策は、教師を目指す学生に対して、教員採用試験に合格することを通過点とし、更にその先に「良い教師になる」ことを目標として見据えた支援を行います。良い教師とは何か。この問いの答えは、人それぞれ異なるものだと思います。教師育成サポート推進室では、皆さんがそれぞれ持っている教育観・子ども観・授業観を活かした上で、地域の子ども達や人々に求められる良い教師像(目指したい教師像)をイメージし、その教師像に近づけるように個別サポートしていきます。

具体的には、教師を目指す仲間が集まり、交流し、教師としての資質・能力を磨くことができる「教サポ室主催講座(教サポ講座、教師力育成講座など)」と、教員採用試験受験者に対して個別指導を行う「教サポ室教員採用試験個別対策(模擬授業・場面指導、集団討論・グループワーク、論作文指導、願書添削、面接指導)」を実施しています。また、教員採用試験個別対策の様子は毎回動画で撮影され、IDとパスワードで管理されたサイトで、自分の成長を動画で振り返ることが可能です。



教サポ講座で意見を交流する様子



IDとパスワードで管理されたサイト例

担当教員の声

教師育成サポート推進室では、教師を目指す皆さんそれぞれの良さを、しっかり引き出してくれる先生達が待っています。

大分県教員採用試験合格(小学校教育コース)

井上 芳朱季 さん



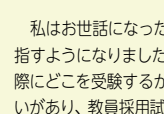
私は小学生の頃からの夢だった小学校の教員になるために、教員採用試験の合格率がよく、サポートが手厚い大分大学教育学部に進学することを決めました。教員採用試験の対策を始めたばかりの頃は、子どもがいない状況で一人で教壇に立ち、実際に授業をすることが自分にはできるのか、授業展開はどのようにすればよいかなどと特に模擬授業に対しての不安が大きかったです。

しかし「就職進路支援室」と「教師育成サポート室」という2つの場所での教員採用試験個別対策で、先生方に模擬授業をご覧いただき、様々な角度からのアドバイスを頂いたり、同じように教員を目指す仲間とグループを組み模擬授業の練習を重ねたりしていく中で、自分の中での授業で大切にしたい部分などが見えてきて、最初に抱いていた不安がなくなっていきました。また就職・進路支援室には、過去に教員採用試験で出題された問題や、筆記や模擬授業、面接等対策のための資料も豊富にあり、何かに躓いたら就職・進路支援室に行けば大丈夫という安心感も抱くことができました。

教員採用試験を振り返ると、この試験を最後まで乗り切れたのは、一緒に試験対策に臨む仲間の存在があったからだと思います。試験に向けて互いにアドバイスをし合ったり、相談したり、時には一緒に息抜きをしたりした時間は、私の中でとても大切な時間です。春からは、大分大学で学んだことを活かし、毎日笑顔で子どもと一緒に成長していきたいと思っています。

熊本県教員採用試験合格(小学校教育コース)

林 寛治 さん

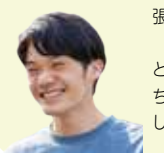


私はお世話になった中学校の先生に憧れ、教師を目指すようになりました。高校生の時に大学を受験する際にどこを受験するか悩みましたが、教職への強い思いがあり、教員採用試験の合格率が高い大分大学教育学部を受験しました。入学から卒業までの4年間でたくさんのことを学びましたが、特に教員採用試験の対策は自分自身が大きく成長した経験になりました。

私は大分ではなく地元の自治体を受験しました。はじめは、情報が少なく何から対策するべきか悩んでいましたが、同じ自治体を受けた大分大学の先輩の体験談を見たり、先輩からアドバイスを聞いたことで、優先順位を考え効率的に対策を進めることができました。「教サポ室」や「支援室」などの、先生方から指導していただける機会がたくさんあったので、利用できるものは存分にするようにしました。採用試験を熟知した先生方が多く、いろんな分野の先生方からアドバイスを受けることができました。

また、大分県以外を受験する学生に向けた講座も数多く準備して頂いたおかげで、模擬授業や面接の回数もこなすことができました。加えて、大分やそれ以外の自治体を受験する友人にも模擬授業や面接を見てもらったり、逆に自分自身からも友人にコメントしたりすることで、いろんな角度から合格に向けて考えることができました。後輩の皆さんも、実践の回数の多さと、先生・先輩・友人とのつながりをたくさん活用して頑張ってください応援しています！

この大分大学での4年間の学びと経験を胸に、春からは子どもたちと一緒に成長できる教師を目指して頑張ります。



大分県教員採用試験合格(特別支援教育コース)

財津 郁美 さん



私は中学生のころから特別支援学校の先生になることが夢でした。大分大学の教員採用試験対策の手厚さや合格率の高さを知り、大分大学に進学することを決めました。採用試験の勉強を始めたばかりの頃は何かからすればいいのかわからず、不安が大きかったです。しかし、「教サポ」や「支援室」などの支援体制を何度も受けていくなかで、少しずつ自分なりの模擬授業や面接の方法をつくることが出来たと思います。分からないことや不安に感じていることも、先生方がアドバイスや励ましの言葉をかけてくださり、精神的にもとても助けられました。また、支援室では先輩方の合格体験記や過去問がたくさん用意されているため、先輩方を参考にしながら自分で計画を立てて勉強を進めていく力もつきました。

そして、不安でいっぱいな教員採用試験期間を乗り切ることができたのは、同じコースの先輩方や仲間の存在がとても大きいです。大学が閉まるまで勉強して、夜にはテレビ電話を繋げながら勉強をしました。模擬授業や面接練習も意見を出し合いながら何度も練習しました。色々なことを教えてくれ、応援してくれる先輩方や、お互いに励まし合い、一緒に頑張る仲間が居たからこそ合格することができたと感じています。

後輩の皆さんも周りの仲間と支え合いながら色々なことを乗り越えてほしいです。きっと大丈夫です。大分大学で学んだことを胸に、私も4月から教員として頑張ります。

附属教育実践総合センター

Center for Research in Education and Human Development

■ 設置の目的と事業内容

附属教育実践総合センター(通称:実践センター)は、昭和54年に教育実践研究指導センターとして開設以来(平成13年に改称)、教育実践に関する理論的・実践的研究を行うとともに、教育実践の指導力を身に付けた教員の養成を担ってきました。

教育実践開発部門(教育実践研究、教員養成支援、教師教育実践、教育実践の指導)と発達教育臨床部門(発達障害臨床、教育臨床実践の指導(休止))の2部門からなる本センターは、主に下記のような事業を展開しています。



教サポ講座で、教員採用試験を終えた4年生が3年生に教員採用試験体験談を話している様子

1 大学と附属学校園との連携・協力

教育学部と附属学校園が連携・協力し、教育実践研究、発達教育臨床研究や教育実習をより効果的に進めていくために、大学と附属学校園による「人材バンク」の相互活用を図っています。

その成果は、紀要、レポート、広報誌「Edu-ta!」、ホームページなどによって、公開しています。

2 地域の教育委員会等との連携

本センターは、大分県内各地域の教育委員会等と連携し、学校教育分野における多様な協力を推進しています。

大分市教育委員会とは大分市現職教員教育等連携推進協議会を共同で設置し、「まなびんぐサポート」のほか、現職教員の資質・能力の向上、そして教員養成教育に関する連携・協力等を行っています。

3 教育実習関連事業

学生が充実した教育実習を行えるよう、その事前・事後指導の企画・立案・実施を担っています。また、公立小学校で実習を行う教職開発ゼミの事前・事後指導にも携わっています。

こうした実習では、大学教員だけでなく、附属学校園や地域の教育委員会等の協力を得ながら、きめ細やかな指導を実施しています。

4 教師育成サポート推進室

教師育成サポート推進室は、学生個々が持つ教師像を向上化し、その教師像に近づけるように、教師観・子ども観・授業観を学修する講座(教サポ講座)を開講しています。

一方、教員採用試験に向けて模擬授業・場面指導・集団討論・個人面接・願書・論作文それぞれの個別対策も行っています。

5 「まなびんぐサポート」事業

平成16年度に大分市教育委員会との連携事業として開始された「まなびんぐサポート」事業は、教育現場からの支援要請に応え、地域の幼稚園や小・中学校に大学生を派遣するものです。

本センターでは、参加学生が教育現場での実践的指導力を高められるよう、この事業の企画・運営及び教育効果の検証等を実施しています。

6 そだちやまなびの相談

〔今年度は休止〕

発達障害・知的障害のある子どもやその保護者に対するカウンセリング、教師などへのコンサルテーション及び訪問相談などの活動を展開しています。

これらの活動には、臨床心理士の資格を持つ専任教員が当たり、地域の相談ネットワークにおいて、中核としての役割を果たしています。

附属学校園

Attached School

教育学部には、附属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が設置されており、それぞれの学校園として通常の教育を実施するとともに、次のような特別な任務を持っています。



四校園こども集会



縦割チーム掃除

教育実習指導

教育学部学生の教育実習を計画し、直接その指導にあたります。

教育研究

教育学部教員と協力し、各校園の教育理論と実践とに関する研究並びにその実証的な研究を行います。

地域教育への協力

研究発表会、セミナー、共同研究会、研究協議などを通して、他の学校と教育交流を図り、地域の教育研究に協力します。

附属幼稚園

教育目標 主体的に生きる子どもの育成

目指す子ども像

- 心豊かなやさしい子ども
- 工夫し遊びを楽しむ子ども
- 明るく伸び伸びと生活する子ども

学級数及び園児定員数

令和5年度

区 分	普 通 学 級			計
	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
学 級 数	1	2	2	5
総 定 員	32	56	56	144



お花屋さん

附属小学校

教育目標 グローカルリーダー（Think globally, act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成～

学級数及び児童定員数

令和5年度

区 分	普 通 学 級						計
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
学 級 数	3	3	3	3	3	3	18
総 定 員	105	105	105	105	105	105	630



学習活動の様子

附属中学校

教育目標 自主自律の精神の下、高い学力・深い愛の心・堪え忍ぶ力を兼ね備えた気品ある附中生の育成



青垣祭・合唱コンクール

学級数及び生徒定員数

令和5年度

区 分	普 通 学 級			計
	1 年	2 年	3 年	
学 級 数	4	4	4	12
総 定 員	160	160	160	480

附属特別支援学校

教育目標 豊かに人や社会と交わり、自ら進んで取り組み、自己表現できる子どもの育成

目指す子ども像

- 明るく、元気なやさしい子
- 自ら進んで取り組み、自己表現できる子
- 人や社会と豊かに交われる子

学級数及び児童生徒定員数

令和5年度

区 分	小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計
	1・2 年	3・4 年	5・6 年	計	1 年	2 年	3 年	計	1 年	2 年	3 年	計	
学 級 数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	9
総 定 員	18				18				24				60



職業（デュアルシステム型現場実習）

教員紹介

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

教育学部

学校教育教員養成課程

初等中等教育コース

教育学：	(教授) 伊藤 安浩 (講師) 吉野 敦	住岡 敏弘	長谷川 祐介
教育心理学：	(教授) 藤田 敦		
幼年教育：	(准教授) 永田 誠	向井 隆久	
国 語：	(教授) 花坂 歩 (准教授) 安道 百合子	藤原 耕作	
社 会：	(教授) 青柳 かおり (准教授) 小山 拓志	甘利 弘樹	黒川 勲 鄭 敬娥 土居 晴洋
数 学：	(教授) 大野 貴雄 (講師) 河村 真由美 (特任教授) 川寄 道広		
理 科：	(教授) 大上 和敏 (講師) 小林 良彦	三次 徳二	
音 楽：	(教授) 栗栖 由美子 (准教授) 清水 慶彦 (特任教授) 田中 星治	松田 聡	
美 術：	(教授) 田中 修二 (准教授) 藤井 康子	廣瀬 剛 村上 佑介	
保健体育：	(教授) 谷口 勇一 (准教授) 大塚 道太	玉江 和義	
技 術：	(教授) 市原 靖士 (准教授) 中原 久志 (講師) 杉山 昇太郎	萩瀬 直孝	
家 庭：	(教授) 財津 庸子 (准教授) 川田 菜穂子 (特任教授) 望月 聡	齊藤 友子	都甲 由紀子
外国語：	(教授) 麻生 雄治 (准教授) 橋本 美喜男 (講師) 大谷 由布子	御手洗 靖	

特別支援教育コース

特別支援教育：	(教授) 衛藤 裕司 (講師) 古長 治基	古賀 精治	
---------	--------------------------	-------	--

附属教育実践総合センター

(准教授) 麻生 良太 森下 寛
(講師) 前田 菜摘

大学院教育学研究科

教職開発専攻

専任教員

(教授) 内田 昭利 清國 祐二 佐藤 晋治 竹中 真希子
(准教授) 大島 崇 熊丸 真太郎 河野 晋也 高橋 徹弥
藤村 晃成 宮崎 好治 森竹 啓介 木村 典之 < 附属小学校長 >
友成 洋 < 附属特別支援学校長 >
(講師) 山本 遼
(特任教授) 清松 今朝見 佐藤 由美子 渡邊 英樹

兼任教員

(教授) 青柳 かおり 麻生 雄治 甘利 弘樹 市原 靖士 伊藤 安浩
衛藤 裕司 大上 和敏 大野 貴雄 栗栖 由美子 黒川 勲
古賀 精治 財津 庸子 鄭 敬娥 住岡 敏弘 田中 修二
谷口 勇一 玉江 和義 土居 晴洋 長谷川 祐介 花坂 歩
廣瀬 剛 藤田 敦 藤原 耕作 松田 聡 御手洗 靖
三次 徳二
(准教授) 麻生 良太 安道 百合子 大塚 道太 川田 菜穂子 小山 拓志
齊藤 友子 清水 慶彦 都甲 由紀子 永田 誠 中原 久志
萩瀬 直孝 橋本 美喜男 藤井 康子 村上 佑介 森下 寛
(講師) 大谷 由布子 古長 治基 小林 良彦 杉山 昇太郎 吉野 敦
(特任教授) 川寄 道広 田中 星治 望月 聡

大分大学 教育学部

入学者受け入れの方針

AP：アドミッション・ポリシー

基 本 理 念

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、特別支援学校教員の養成を行うことです。

教 育 の 目 標

各教科等の指導内容と指導方法についての確かな専門的知識の上に、新しい時代を担うための子どもたちの学び力を育む実践的指導力を持ち、隣接する校種を見通しながら教育現場で生起する諸課題に適切に対応できる小学校教員、特別支援学校教員の養成を行います。

求める学生像

- 基礎学力を有し、小学校教員、特別支援学校教員、及び隣接校種である中学校教員、幼稚園教員として子どもたちの教育や支援に取り組む意欲と情熱がある人
- 学校教育に深い関心があり、大分県を中心とした地域社会への貢献ができる人
- 物事を多面的に分析し、自ら課題を見つけ、他者と協働して課題解決ができる人
- 子どもや他者とのコミュニケーションが積極的にでき、相互理解を深めようとする人

入学者選抜の基本方針

教育学部では、多様な観点から受験者の学力や資質をみるため、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜及び総合型選抜を実施し、「求める学生像」にそって学生を選考します。

一般選抜 (前期日程)

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個別学力検査を課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では教科の試験とグループディスカッションを課しています。

一般選抜 (後期日程)

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個別学力検査を課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では小論文とグループディスカッションを課しています。

学校推薦型選抜

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個人面接及びグループディスカッションを課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個人面接及びグループディスカッションでは提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

総合型選抜

総合的な学力及び教科の能力をみるため、大学入学共通テストと個人面接及び教科〈音楽、美術、保健体育、技術、家庭〉の試験を課しています。大学入学共通テストは3～4教科4～5科目とし、個人面接及び教科の試験では提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

各選抜試験で重視する力や観点

入 試 区 分		検 査 項 目	学力の 3 要素			求める学生像	
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心
一 般 選 抜	前 期 日 程	大学入学共通テスト	○	○			
		教科の試験	○	○			
		グループディスカッション(調査書)		○	○	○	○
	後 期 日 程	大学入学共通テスト	○	○			
		小 論 文		○			○
学 校 推 薦 型 選 抜		グループディスカッション(調査書)		○	○	○	○
		個人面接 グループディスカッション(調査書) (志望理由書)(推薦書)		○	○	○	○

入試区分	検査項目	学力の3要素			求める学生像	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心
総合型選抜	大学入学共通テスト	○	○			
	教科の試験	○	○		○	
	個人面接 (調査書) (自己推薦書) (活動報告書)		○	○	○	○

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、修得していることを前提として行われます。このような点から、一般選抜及び学校推薦型選抜において課している大学入学共通テストの教科・科目についてはその基礎を十分に理解し、修得するとともに、応用的な力を養っておくことが必要です。総合型選抜においては、これらの教科・科目の試験すべてを課しているわけではありませんが、そこで受験しなかった教科・科目も大学入学までに十分に理解し、修得していることが望まれます。

また、教科・科目の知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力等の学力や、「求める学生像」に示した資質を高めておくことが望まれます。

国語

他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、修得しておくべき科目は国語総合の他、国語表現、現代文、古典に関する科目です。

地理歴史
公民

地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を修得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起きている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学

数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を修得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、修得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科

基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語
(英語)

外国語(英語)を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語(英語)の力を持つことが望まれます。
なお、修得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー：CP)については以下をご参照ください。

大分大学ホームページ⇒大学の教育情報⇒教育の目標・三つのポリシー
<https://www.oita-u.ac.jp/education/3policy.html#ad>

Map 建物配置図

教育学部



附属学校地区





OITA UNIVERSITY

学 章

「OITA」と「UNIVERSITY」の頭文字「O」、「U」をモチーフに、躍動感あふれる2つの円でデザインした新しい大分大学の学章(シンボルマーク)です。

外側の円(青色)は、教育、福祉、医療、環境、産業経済、科学技術など新しい大分大学の研究・専攻分野が、常に新しいものを目指し、止まることなく前進し続け、地域の発展、さらには国際社会の発展に貢献するグローバルな様子を表現しています。

中央の円は、人々が集い学び、そして社会的、文化的な交流・活動の場所である大学キャンパスを表現しています。

「O」に使用している青色は、知性、誠実、探求心、自立心を表す色とされており、「U」の黄色は、希望、成長、幸福を象徴する色とされています。

大学の未来が希望に溢れ、光り輝き、そして発展していくようにとの願いを込めて、この2色を採用しました。

作者／神保 米雄 氏

ACCESS

大分大学



大分市内中心部バスのりば案内図



巨野原キャンパス
(教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部：大分市大学巨野原700番地)
〈JR利用〉
JR豊肥本線「大分大学前」
下車(大分駅より約12分)、徒歩約10分
〈バス利用〉
大分バス 中央通り「トキハ前1番のりば」
又は JR大分駅府内中央口(北口)
「大分駅前3番又は4番のりば」から

- 「大南団地(高江ニュータウン)」行きを利用(約40分)、「大分大学」又は「大分大学正門」下車
- 「戸次、臼杵、佐伯」行きを利用(約40分)、「大分大学正門」下車、徒歩約10分
(詳細は時刻表で確認してください)

附属学校園



王子キャンパス
(附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校：大分市王子新町1番1号)
〈JR利用〉
大分駅より徒歩25分
西大分駅より徒歩20分
〈バス利用〉
大分交通
「大分駅前7番のりば」(県立図書館)行き乗車
「附属中学校前」「附属特別支援学校前」
下車、徒歩3分

大分大学教育学部

〒870-1192 大分市大学巨野原700番地 TEL(097)554-7504
ホームページアドレス <http://www.ed.oita-u.ac.jp/>

発行 大分大学教育学部総務係 TEL(097)554-7504
E-mail kyosomu@oita-u.ac.jp

令和4年6月発行
表紙デザイン 教育学部教授 廣瀬 剛